



(六番沢のミズバショウ)

群馬・尾瀬沼にミズバショウの花が咲き始めると、上野発、深夜の列車に大勢の女性ハイカーが尾瀬詣でをする。《…夢見て咲いている水のほとり》沼田駅より尾瀬へ向かうバスの中でコーラスを聴いたこともあった。

二十年以上も前、浜中町の三番沢(廃村)にはミズバショウの見事な姿が車の中からあちらこちらに見られた。MGロード際の湿原センターから三番沢へ至る峠道の傍に一面のヤチ坊主が群れ、あたりにミズバショウも群生していた。平凡社大百科事典(一九六六年初版)によるとミズバショウは本州、中部以北の湿地に群生し、花は多年草。大きな白炎包を立てる…。植物の科目は想像外の「サトイモ科」で独自のにおいがあるが、冬眠から目覚めた熊にとっては、根の臭気は何のご馳走という話も聞いたことがある。

円柱形の花穂に、小型の雌雄両性花をびっしりつける。サハリン、ウスリー、千島、カムチャツカに分布する。

(ペン&スケッチ 小椋 昭三)

ひとのうごき

3月末現在 (前月比)

- 人口: 6,624人 (-53)
- 男: 3,213人 (-25)
- 女: 3,411人 (-28)
- 世帯数: 2,435世帯 (-18)



おたんじょう

茶内橋北東・新沼穂乃香ちゃん(直樹さん)
茶内萩の里・黒木宝風くん(圭太さん)
姉別市街・小原詩音くん(健作さん)
霧多布三区・佐藤七海ちゃん(和春さん)



おくやみ

茶内緑・伊藤チエさん(94歳)
茶内西門中央・井上定男さん(68歳)
榊町・栗山由之助さん(89歳)
新川・櫻庭トミ子さん(83歳)
茶内緑・佐藤春男さん(89歳)
霧多布一区・相田定男さん(89歳)
姉別八千代・面野トミエさん(83歳)

～訂正とお詫び～

4月号33ページ、ひとのうごき記事で、「2月末現在」を「1月末現在」と、世帯数が「2,453世帯」のところを「2,450世帯」と誤って表記してしまいました。また、同ページおたんじょう記事で、「榊町」を「榊街」と誤って表記してしまいました。ここに訂正し、お詫び申し上げます。



俳句

鶉啼き鶯鳴いて夜明けけり
福沢 睡蓮 (茶内)

湿原に恋うたせわしオオジシギ
小椋 昭三 (暮帰別)

手をつなぎ若人翔びたつ春の空
酒井 梅子 (茶内)

走攻守野球のよさを思う春
鈴木 徹夫 (霧多布)

草紅葉踏み進むごと老いにけり
吉本 弘 (霧多布)

短歌

空の涯亡父待つところ温かく明るきところ花など咲きて
松永 真澄 (茶内)

青天にましろな浮雲北海道地図にみえたり何やらまぶし
二瓶 良子 (茶内第三)

五、六月は野山も里も花咲くよポチと歩いた遙かな日々よ…
福沢 睡蓮 (茶内)

春霞たなびく朝に写メールのセーラー服がほゝえみている
相原 睦子 (茶内)

年一度小学生とのふれ合い学級老いの楽しみ閉校に消ゆ
松館スミ子 (貫人)

詩

野の花

春の野にひとり佇み
心清き人に逢いたし
かそけきは細流の音か
水芭蕉の花咲き揃う
春の萌しにこころ和めり

春の野にそよ風吹かば
心清き人を訪ねむ
青き増す裾野の原の
かすみたつ山路の奥に
誰が棲むやけむり棚引く

春の野に花咲き競う
心清き人は花摘む
遙かなる昔を偲び
花籠に文を託して
贈りし人は今は何処に
徳光 千秋 (琵琶瀬)